

平成28年度千葉市公営企業会計決算審査意見の概要

審 査 の 結 果 [意見書P. 5]

公営企業会計決算及び決算附属書類は、いずれも法令に基づいて作成されており、その計数は正確であるとともに、経営成績及び財政状態は適正に表示されているものと認められた。

1 病院事業会計

【意見書】[P 23－24]

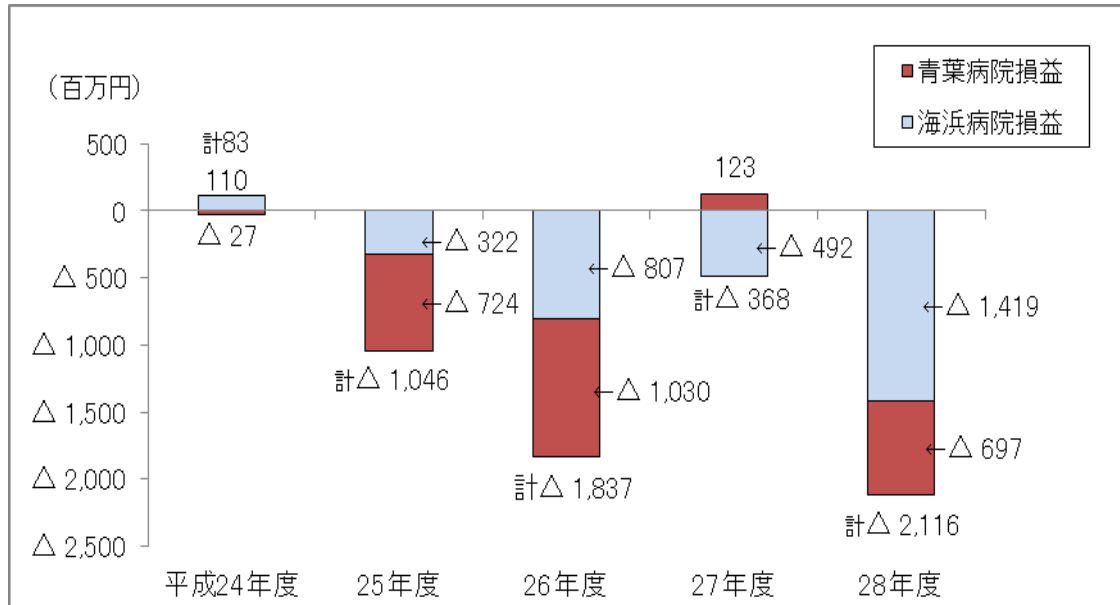
- (1) 入院・外来患者数共に減少し、当年度純損失は21億1,588万円である。患者数の減少は、海浜病院の心臓血管外科における術後死亡事案の影響によるものと考えられる。
- (2) 資金面においては、収益的収支の損失により、資本的収支の補てん財源が不足するなど、極めて厳しい状態が続いている。決算の推移をみると、収益向上を目的とした体制整備を実施したものの、増加したコストに収益が追い付いていない傾向にあることから、病床利用率を上げるなどの収益確保策を講じられたい。
- (3) 海浜病院にあつては、心臓血管外科手術調査委員会の提言を受け、医療安全管理体制改革やインフォームド・コンセントの充実といった取組みを推進してきており、「第三者検証委員会」において、医療安全に関するチェック機能、確認機能の構築、医療安全管理体制の取組みの強化などについて確認・評価されたところである。このことから、この取組みを確実に継続することにより市民の信頼回復に努められたい。
- (4) 今後の事業運営に当たっては、救急医療や小児・周産期医療をはじめ地域に必要とされる医療に的確に対応するとともに、両病院の有する専門的な診療機能を十分に発揮して良質な医療を安定的に提供することで、市民の健康増進に一層寄与されることを期待する。

【決算状況等】

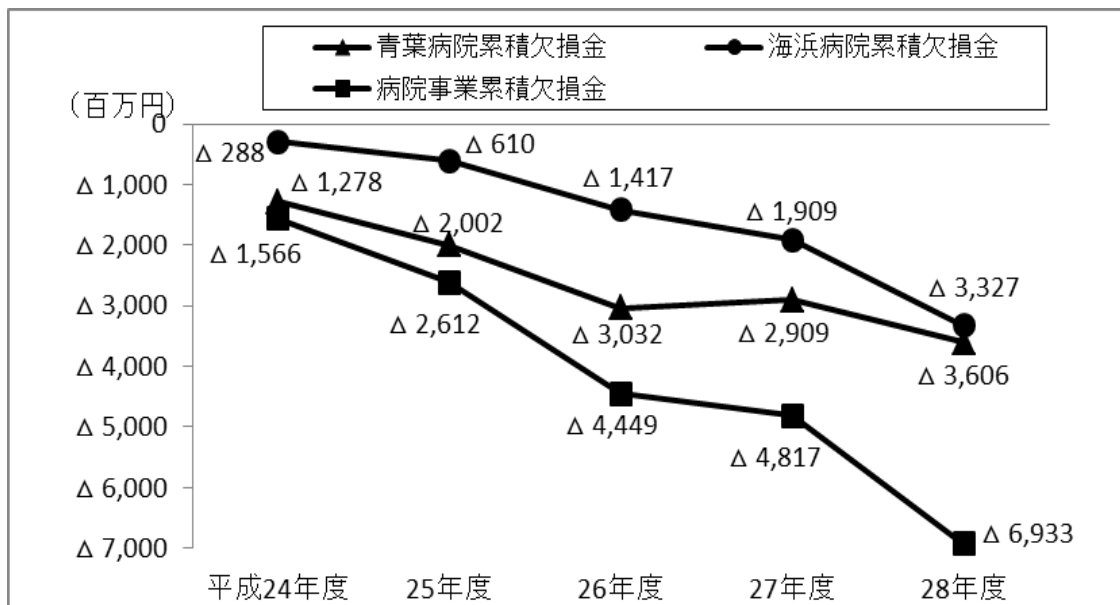
(単位：人、%、千円)

区 分	28 年度	27 年度	増 減
①延べ入院患者数	171,857	179,331	△7,474
青葉病院	106,222	106,141	81
海浜病院	65,635	73,190	△7,555
②延べ外来患者数	342,700	352,301	△9,601
青葉病院	204,946	204,150	796
海浜病院	137,754	148,151	△10,397
③病床利用率	70.6	73.5	△2.9
青葉病院	76.6	76.3	0.3
海浜病院	62.7	69.7	△7.0
④当年度純損益	△2,115,884	△368,245	△1,747,639
青葉病院	△697,330	123,350	△820,680
海浜病院	△1,418,555	△491,596	△926,959
⑤一般会計繰入金	3,332,795	3,425,945	△93,150
青葉病院	1,965,858	2,196,037	△230,179
海浜病院	1,366,937	1,229,908	137,029
⑥企業債残高	20,692,101	21,344,603	△652,502
青葉病院	18,115,198	18,740,590	△625,392
海浜病院	2,576,903	2,604,013	△27,110

当年度損益の推移



累積欠損金の推移



2 下水道事業会計

【意見書】〔P 4 0－4 1〕

- (1) 接続人口及び使用水量が増加したものの、節水意識の高まりや渇水があったことにより世帯当たりの使用水量は減少している。
- (2) 収益面においては、汚水管渠整備が概ね完了しつつあることに加え、本市の人口も平成32年度をピークに減少局面に入る見通しであることから、将来的に水需要の伸びは期待できず下水道使用料収入の大幅な増収は見込めない状況である。
- (3) 費用面においては、管渠や浄化センターの改築更新等に多額の資金が必要になるとともに、今後10年間は企業債償還額が大きく発生することから経営環境は厳しい状況になるものと予測される。
- (4) 下水道は安全で快適な生活環境の実現と河川等の水質保全を図るために欠くことのできない重要な施設であることから、「千葉市下水道事業中長期経営計画」（平成22～32年度）に掲げた行動計画に基づき、建設投資の適正化や経営の合理化・効率化等を着実に推進し、経営基盤の更なる強化に取り組まれることを要望する。

【決算状況等】

(単位：m³、%、千円)

区 分	28 年度	27 年度	増 減
①有収水量（有収率）	95,852,236 (80.5)	95,630,589 (79.7)	221,647 (0.8)
②下水道処理人口普及率	97.3	97.3	0.0
③当年度純利益	1,842,886	1,613,317	229,569
④一般会計繰入金	8,137,372	8,360,413	△ 223,042
⑤企業債残高	242,639,577	245,851,364	△ 3,211,787

3 水道事業会計

【意見書】〔P 5 6〕

- (1) 給水量は、節水意識の高まりや節水型家庭製品の普及などを背景として平成25年度をピークに減少し、合わせて営業収益も減少を続けている。給水人口の推計も、平成32年度をピークに減少に転じることから、営業収益の大きな増加は見込めない状況である。
- (2) これまで給水量の増加に対応するため、浄水場、管路等の施設を順次整備してきたが、今後は、施設の老朽化対策や地震等の自然災害に対する取組みの強化などに多くの資金が必要となる。
- (3) 水道事業の現状と課題を踏まえた「千葉市水道事業中期経営計画」（平成28～32年度）を策定したが、引き続き安全で良質な水の安定供給を行うことができるよう同計画に掲げた基本施策を着実に実施されたい。特に、基本施策の「水源活用方策の検討」及び「広域的な連携強化の検討」については、持続的な事業運営に向けた運営基盤の強化や経営の効率化に資するものであり、これまでの取組みを継続しながら、関係機関・団体との協力・連携をより強化されたい。加えて、基本施策の「(仮称) 千葉市水道事業長期施設整備計画の策定」については、的確な水需要精査に加え、「アセットマネジメントの実践」による施設の維持管理・保全の効率化や、リスク評価による適切な施設の更新改良を検討するなど、長期的な視点から経営健全化や運営基盤の強化を図るよう配慮されたい。

【決算状況等】

(単位：m³、%、千円)

区 分	28 年度	27 年度	増 減
①有収水量（有収率）	4,630,834 (99.8)	4,660,502 (99.7)	△29,668 (0.1)
②給水普及率	82.6	82.4	0.2
③当年度純利益	0	0	0
④一般会計繰入金	884,976	818,894	66,081
⑤企業債残高	19,592,021	20,323,562	△731,541